

調査報告

牛の感染症アンケート成績報告 —クロス集計結果から—

菊 佳男

家畜感染症学会事務局、(独)農研機構・動物衛生研究所
(〒062-0045 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘4)

牛の感染症は、ウイルス、細菌、寄生虫、真菌あるいはマイコプラズマ等の様々な病原微生物の感染により起こる。これらは、牛を死亡に至らせるだけでなく、増体量の低下や産乳量の減少、繁殖成績の低下等を引き起こすことによって、生産者に対して経済的損失を与えている。その中でも、日々遭遇する下痢症、肺炎、乳房炎等は生産病として位置付けられており、それらの疾病の存在は避けがたいものとして考えられている。これらの疾病は、原因となる微生物があらゆる環境下に存在しているため、病原微生物の感染性と宿主の感染抵抗性のバランスが崩れたときに感染が成立し、発症に至る。そのような日和見感染あるいは潜伏感染による経済的損失は、高病原性微生物による感染症の様に爆発的なものではないものの日々蓄積され

ていくため、全国の畜産経営に大きな損害をもたらしていることは明らかである。それに対して、全国各地の生産現場では牛の栄養状態や環境衛生等の管理やワクチン等の牛の感染抵抗性を高めることによって、これらの感染症の制御に取り組んでいる。

本会は、生産現場で日常的に遭遇する日和見感染あるいは潜伏感染に注目し、臨床獣医師の協力のもと、2012年度に「牛の感染症に関する全国アンケート調査(本会会誌2巻2号掲載)」を実施した。今回はその時得られた情報をもとに、特に地域性に焦点を当てたクロス集計を行ったところ、全国各地の臨床獣医師の感染症についての取り組み方や考え方についての知見が得られたので報告する。

The report of questionnaire about infectious diseases in cattle

Yoshio Kiku

The society of Farm Animal in Infectious Diseases
National Institute of Animal Health, National Agriculture and Food Research Organization
(4 Hitsujigaoka, Toyohira, Sapporo, Hokkaido 062-0045)

受理：2013年10月18日